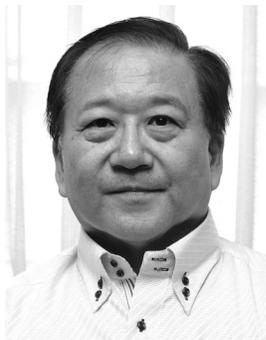


◆経済倶楽部講演会第4126回（9月4日）

首都圏直下型地震の最新予知技術と その対策について

東海大学教授、地震予知研究センター長 なが 長尾 おとし 年 やす 恭

- * 御嶽山の噴火は予知できた
- * 必要な24時間の地下監視
- * 地震予知とはどういうものか
- * 3・11も事前にデータで確認できた
- * 有効な衛星からの観測
- * 前兆現象を複数のデータで確認する
- * 地震予知の予算は極めて少ない
- * 地震の電磁気学的前兆現象に注目
- * 東海大学が行っている地下天気図とは
- * 首都圏直下型地震への対策は十分か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
定例講演会は1カ月ほどお休みをいただきました
ましたが、今日からまた毎週開催をいたしたいと
思います。

9月1日が防災の日でございます。2年前
に同じタイミングで長尾先生から、お話をいた
だきました。皆さん首都圏直下型地震には大
変ご興味をお持ちだと思いますので、その可能
性、対策を含めまして、最新の科学知識をご披
露いただけたと思います。どうぞゆっくりお話
をお聞きいただきたいと思います。

それでは長尾先生よろしくお願いいたします。
（拍手）

長尾 東海大学の長尾と申します。今日はお
招きいただきましてありがとうございます。

この2年間、いろいろやってきましたが、
3・11が過ぎて何が増えたかといいますと、実
は「レジリエンス」という言葉が非常にはやっ
ております。私は今、レジリエンスジャパン推
進協議会の理事を拝命していますが、これはあ
る意味、内閣府お抱えの財団法人という形で、
会長はN T Tの会長さんですとか、非常に面白
いところではなでしこジャパンの佐々木則夫監
督も理事で入っています。彼はある意味シンボ
ル的な形で日本を強くするということですね。
それから、地震予知そのものは私も頑張りま
すが、いちばん問題なのは家です。要するに、
予知をして地震が来なくなるならいいのですが、
予知をしても地震は来ますので、とにかく家が
強いということが最重要であるということで、